

## 主の祝祭「クリスマス」の恵みを味わうために

教会では12月25日のクリスマスに先だつ4週間を「待降節」と呼び、イエス・キリストのご降誕に対する心構えの期間として過ごします。

「待降節」と一緒にもう一つよく使われているのは「アドベント」という言葉ですが、それはラテン語で‘だんだん近づく、到来’を意味します。教会ではこの期間、「アドベント・クランツ」のロウソクに週毎1本ずつ灯しながら「闇の中の光」である主イエス・キリストが来られますご降誕を待ち望むということを楽しむながら過ごします。

今年は特に震災や戦争、様々な出来事の中で大きな苦しみ、悲しみの中にある方々と共にクリスマスをお祝いすることを「クリスマス準備会」で話し合いました。『礼拝と音楽』No.191(日本キリスト教団出版局,2021年)、『教師の友 2024年10,11,12月号』(日本キリスト教団出版局)に紹介された「ブルー・クリスマス」という礼拝を参考にして点燭の言葉や賛美を決めました。「ブルー・クリスマス」とは悲しみや喪失にある人と行える礼拝の一つの形で、最も夜の長い冬至にあたる12月21日かその前後にされることが多いようです。御子イエス・キリストのご降誕が闇の中にある一人ひとりを照らしてくださるよう祈りをもって行おうとしています。

さらに、準備会では今年のクリスマスのテーマを「希望」と致しました。「希望」を虚しくさせるような世界情勢の中、「希望」という言葉を素直に受け止められない中にある一人ひとりを心に留めつつ、まさに最初のクリスマスのあの夜、御子イエス・キリストは低く、貧しい場に、泊まる部屋も許されない貧しい姿で世に来られました。あの夜、野原にいた羊飼いたちが聞いた天使たちの賛美は「天には栄光、地には平和」でありました。

わたしたちもその賛美を世に伝え、苦しみ悲しみの只中にある一人ひとりが真の平和、安心な日常を送れることを切に求めて行きたいと願っています。

そして、今年は「灯(ともしび)」をシンボルとしてクリスマス装飾に用います。ろうそくの灯りをイメージしたものです。明るさの程度やその範囲を考えると頼りがいのない灯りかも知れません。

しかし、わたしたちの小さな力でも暗やみに立たされている誰かに‘一緒にいるよ’のサインを送るは出来ます。

各々の灯りを「穴蔵の中や、升の下に置く者」(ルカ11:33~36)ではなく、照らし合う者として生き、共に主にある希望によって歩むことを改めつつ祝うクリスマスにしましょう。

一人ひとりの上に主イエス・キリストのみ救いの恵みによって平安が宿り、豊かな慰めがありますようお祈りいたします。



## <ブルー・クリスマス>

「ブルー」の意味するところは、「憂鬱」です。祝祭を迎える季節に、人びとの憂鬱な気持ちの存在を認め、受け止め、分かち合う。嘆き、悲しみ、苦悩を神の前に差し出す。それが教会の行うブルー・クリスマスの意味合いです。

ブルー・クリスマスは、おもにその年に家族や友人を亡くした人びとのための行事として冬至の日(南半球のオーストラリアでは夏至)に行われきました。

この日は伝統的に使徒トマスを記念する日でもあります(現在のカトリック教会では7月3日に祝います)。そのため、イエスさまの復活を信じられずに苦悩したトマスと、暗やみと喪失の中で苦悩する人ひとを関連付けて、礼拝が構成されることもあります。また、「騒動」の過ぎ去った年末やクリスマスの季節の終わり(1月6日ころ)に、身近な人の死別を経験した人に限らず、さまざまな苦悩を抱えた人びとのための集会をもつ共同体もあります。

各々の「ブルー」に正直になり、各々の「ブルー」を神に差し出すことがこの冬、共に出来れば幸いです。

『礼拝と音楽』No.191 日本キリスト教団出版局

## Merry **2024** Christmas

- 
- ◆ 12月 1日(日) アドベント第1主日 午前10時30分 礼拝
  - ◆ 12月 8日(日) アドベント第2主日 午前10時30分 礼拝  
クリスマス子ども会 午後1時~2時30分
  - ◆ 12月 15日(日) アドベント第3主日 午前10時30分 礼拝
  - ◆ 12月 22日(日) アドベント第4主日 午前10時30分  
クリスマス礼拝、聖餐式、祝会
  - ◆ 12月 24日(火) クリスマス・イブ キャンドルサービス 午後7時
  - ◆ 12月 25日(水) クリスマス黙想祈祷会 午前10時30分~11時30分  
..... クリスマスおめでとうございます! .....
  - ◆ 2025年1月1日(水) 元旦礼拝 午前11時